

## 医療におけるIT(Information Technology)の応用

### ～難聴患者さんの外来診療における電子カルテによる筆談の試み～

当院では二〇〇六年十一月に電子カルテを導入しましたが、これまでの使用経験から多くのことを学んできました。例えば、検査依頼の効率化、医療情報提供書や紹介状などの文書の標準化とスピードアップが実現したのみでなく、薬剤情報(薬の剤型、投与量、作用、副作用、併用禁忌など)をリアルタイムで検索できますし、「今日の治療指針」を検索すれば殆どすべての疾患についての最新の標準的な治療法が網羅されていますので、医師にとっても診療上貴重なサポートとなり、安全な医療の実践にも役立っています。

ところで私は以前から毎日の診療において遭遇する難聴の患者さんの「コミュニケーション」に苦慮していました。難聴の患者さんの診療においては、付き添いの在る場合は特に問題ないのですが、付き添いもなく、補聴器をつけていない場合やつけていても機械的雑音のためによく聞きとれない場合などには仕方なくメモ用紙を用いて筆談を試みていました。しかし時間がかかる上に患者さんの理解を十分に得ることが困難でした。

とここで、もう随分前になりますが、音声入力により画面に日本語の文章を書ける機器があるというので千葉県の某会社のデモ機をしばらく借用して試してみましたが、音声認識機能はまだ十分でなかったので購入を見送った経緯がありました。しかし、難聴患者さんの数が増えてきたため、二年前より診察室の電子カルテのディスプレイ上にキーボードから文章を入力して患者さんに読んでもらう試みを始めました。

ITの素晴らしいところは、入力する文字のサイズも自由に変換できることで、視力の低下した患者さんに対しては文字サイズを拡大することで対応できることです。現在難聴のためこの方法で診療している患者さんは合計二十名ですが、中等度の聴力低下のため「コミュニケーション」がとれにくい患者さんを含めると今後筆談の対象者が更に増えることが予想されます。このようなハンディキャップを持つ患者さんは医療機関を受診する際、意志の疎通が困難なため迷惑がられることが多く、独りで病院を受診したところ付き添いの人を連れてこないと言われた患者さんもありました。このように難聴は今や重要な社会問題の一つともなっているのです。

そのような状況の中で、最近スマートフォンやPadおよびマイクロソフトのWindows7での音声認識機能の向上と音声入力の実用化が話題となってきたため、現在使用している第六世代のiPadで試してみたところ、昔の機器に比べ入力も容易で、文字変換のスピードも速く、音声認識機能も遥かに向上していました。入力した音声を一〇〇%正確に再現できない時もありますが慣れれば充分実用化できそうに思われます。

そこで当院では、まず外来診察室の電子カルテを用いて音声入力により難聴の患者さんと「コミュニケーション」をとる方法を試みたいと思っています。このような試みが成功し、多くの医療機関で普通に実践されるようになれば難聴を有する人々にとっても福音になるに違いありません。

(豊田)



そこで、もう随分前になりますが、音声入力により画面に日本語の文章を書ける機器があ

るというので千葉県の某会社のデモ機をしばらく借用して試してみましたが、音声認識機能

## 透析とかゆみ



枢性内因性オピオイドの異常も言われています。

### ●透析患者におけるかゆみの原因

かゆみは誰にとっても不快なもの

ですが人工透析を受けている方は合併頻度が高く、強いかゆみは睡眠障害を起こすこともあります。湿疹や薬剤などのアレルギーによる皮膚疾患は別にして透析患者により関係あるかゆみを透析掻痒症といわれることもあります。

### ●かゆみが出る機序

かつては、かゆみは痛みの軽いものと考えられていました。しかし痛みとかゆみは異なる神経によって伝えられることが分かってきました。かゆみを伝える神経は皮膚の表皮と真皮の境界部に存在するC神経線維と呼ばれる最も細い神経線維であることが明らかになりました。C神経線維の末端が刺激を受け、大脳に到達してかゆみとして認識されることがわかってきました。最近、中

廃物が皮膚に沈着することによるかゆみです。血液中のカルシウム、リン濃度の上昇の時にみられます。リン酸カルシウム結晶の沈着によると考えられています。β<sub>2</sub>マイクログロブリンの沈着、副甲状腺ホルモンの上昇や他の尿毒症性有害物質の蓄積が関係しています。また搔把、透析機材との接触による皮膚刺激などがあげられます。

### ●透析患者におけるかゆみの対策

まず一番は皮膚の乾燥を予防・保湿することです。

そのためには部屋の乾燥を防ぐため、ぬれたタオルをハンガーなどを利用して室内にかけない。炬燵、電気毛布などひかえる。皮膚の脂を保護するためタオルで優しく拭く。石鹸は皮脂膜などのバリアを壊すので使すぎない。手の平につけて洗う程度にする。風呂上がりには保湿剤を塗る(白色ワセリンを基本に使用している)。汗や汚れは皮膚の刺激になるのでシャワーで清潔にする。衣服は肌さわりの良い木綿が良い。搔把は悪化の大きな原因なので搔かない工夫をする。

次に尿毒症性有害物質の蓄積を防ぐためには良い透析をすることが基本です。そのためには生体適合性の良い透析膜、透析器材の使用、透析液の清浄化、十分な透析を行うことが大切です。

リン、カルシウム、副甲状腺ホルモン濃度を適正にコントロールするためにはリン吸着剤の使用、適切な薬剤の使用、透析液の選択や食生活の改善(十分な栄養と食事内容)などが大切です。

また他の要因として基礎体重の設定が不適切であると、全身の細胞の活性が抑えられ食欲低下、栄養素の吸収力低下などが起こり、かゆみの原因になるとともに生命予後にも関係してきます。

掻痒症の原因は一つではなくて、これらが複合している可能性がある。腎移植を受けた方は透析におけるかゆみが改善することが証明されていますので、より正常の腎臓に近い機能を有する透析の発展が期待されます。

(末友 祥正)

もう一つは微量元素の異常や老

角層のすぐ下まで侵入してきます。そのため刺激を受けやすくなりかゆみが多くなります。冬に皮膚の掻痒症が多いのは、日本の冬は空気が乾燥しており水分が失われ皮膚が乾燥しやすくなっているためです。

## 講演 「医療現場で起きやすい問題等と法的対応のセンス」

講師 弁護士法人アゴラ 弁護士 岩崎 哲朗 先生

6月11日(木)の当院の定例研修会は、弁護士法人アゴラの岩崎哲朗先生をお招きして「医療現場で起きやすい問題等と法的対応のセンス」と題して講演をしていただきました。お忙しい中お越しいただき、誠にありがとうございました。

以下は、岩崎先生に執筆していただいた講演の抄録です。



1 医療現場で働く方々は、実際現場では医療に関してどのような紛争が生じているのかについての情報をもつことが必要です。

この点については、大分県医療安全支援センターに寄せられた苦情内容をみると概略が捉えられます。患者さん等から医療現場に関する苦情として多いのは、医療行為・医療内容、医療機関従事者の接遇、医療費(診療報酬等)についての順です。この内容は、ある意味では当然の傾向かと思われませんが、皆さんに認識してほしい点は、「医療機関従事者の接遇」が2番目に多い苦情内容であるということです。

医療の全課程でみますと様々な医療事故・看護事故が発生しています。このような事故を完全になくすることが理想ですが、現実には事故を完全に防ぐことはできません。事故が起こった場合、患者さん側と医療機関とのトラブルに発展していくかどうかについては、関係者の「接遇」が大きな要因になっているということを知っていただきたいと思います。

医療機関に従事する多くの関係者の方々は、皆が患者さん達の健康を第一に考えています。しかし現実には、多くの用件を抱える中で患者さん達に対応していき、ともすればそこに「感情を持っている人(患者)」がいるということを忘れてしまいがちです。患者さんは、生命・身体に関する傷病を抱えており、これが治癒するかどうかに関心があるのは当然ですが、人として接する相手の愛情好意を感じるとるものなのです。

「平生往生」という言葉がありますが、医療事故が起こった場合、紛争になるかどうかについては、関係する方々の「平生」が大きく影響をすることをご理解いただきたいと思っています。

2 現在の医療はチーム医療です。当然、医療機関の関係者としては、チームの一員として、自らの権限・責任範囲をきちんと行うだけでなく、横の連携をとり他の関係者の行為についてもチェックをすることが求められています。

裁判例では、医療関係者は、その治療行為等を行う患者さんの生命・身体という重大な権利侵害の可能性があるとを考慮すると、「最善の注意義務」を尽くすことが必要だ

とされています。

そのような中で、多くの医療関係者が職務を分担する病院においては、例えば注射液等の薬品について確認をする注意義務は、それぞれ取り扱う関係者においてであるとされています。複数の職種の過失行為の競合によって事故が発生した場合は、前の人への選択が問われるだけでなく、チェックしなかったことが過失であるとして担当者各人について個別に責任が問われることがあるということを理解して欲しいと思います。

3 カルテ(看護日誌を含む)は、当時の状況が電子情報(または紙情報)として残っている客観的な資料です。

このため、カルテは、「後に第三者がどのような医療(関係)行為がなされたかを確認するために、必ずチェックするものである。」ということを前提として、きちんと記載するように心掛けてください。

4 危機管理という考え方は、医療事故が起こった場合、その情報を一元的に責任者が知る必要があることを要請するものです。

このためには、現場で起こるヒヤリハット事案を含め、問題はいち早く上司を通じて責任者へ情報が伝わるシステムをつくる必要があります。また、下から上がってきた情報については、これをきちんと整理・検討した上で現場に具体的指示を出す必要があります。

このようなシステムができているかどうか、システムができていない場合に機能しているかどうかを常にチェックしておいてください。

医療事故に関しては、患者さん側や医療機関側について、それぞれ専門家がサポートしています。当事者だけの解決を図ろうとして、現場サイドの判断だけで対応することは避けるようにしてほしいと思います。

皆様の仕事は、誰からも崇高な使命を持ったものであると評価されています。「今」できることをきちんとし、起こったことについては坦々とチーム対応することで、大分記念病院の「未来」をつくって下さい。

## 講演 語りと音楽と舞踏で綴る「命の讃歌」対馬丸の悲劇

講師 高田 三千尋 先生

8月6日(木)に開催された定例研修会は、当院名誉理事長の高田先生の「対馬丸の悲劇」と題した講演とDVD鑑賞でした。以下は高田先生執筆の抄録です。



先のアジア・太平洋戦争末期、最後の地上戦になった沖縄で起こった疎開船対馬丸の悲劇を舞台劇にしたDVD観賞です。

昨年の日野原重明先生の103歳記念フォーラムで上演し、先生から感銘を受けた、大分は日本一の文化県だねと褒めて頂きました。

1944年10月、圧倒的な戦力で日本海軍を殲滅したアメリカは戦後のアジアにおける恒久的な基地化を狙って沖縄を占領することを決定し、10月10日に沖縄に対して本格的な空襲を開始しました。

これに先立ち、日本は沖縄の地上戦に備えて、住民の本土への疎開を決定しました。その中には幼い学童も含まれていました。

1944年8月20日午後6時35分、一般人及び那覇国民学校の児童、その介護者併せて1,661名が乗船した疎開船対馬丸は颱風接近の風雨の中、那覇を出航。8月22日午後10時過ぎ、米潜水艦の発射した3発の魚雷によって撃沈されました。亡くなった方は1484名、乗船していた学童824名余のうち775名が死亡、生還出来た学童は59名とされています。事件後日本軍による徹底した箝口令により事件の真相は語られず、現在も語

れない人々がおられる由です。以下は劇の構成・演出を手掛けた川谷和也「新老人の会」世話人の解説です。

ステージは「対馬丸」の出航から沈没そして漂流を、生存者の証言に基づきドキュメンタリー形式の語りで進行。語りは、命を奪われた子供たちの「魂の声」を原点に構成されています。音楽はラテンジャズでフルートの世界的第一人者・赤木りえさんをお願いしました。沖縄の風景や音楽、生活感はラテンに共通する感性があるからです。舞踏を後藤智江さんをお願いしたのは、より舞台を立体化するために「魂の舞い」を創作し、当時の子供たちと同年齢の子供たちにレクイエムを込めて参加してほしかったからです。

こうして舞台は「命の尊さ」を謳いあげる平和讃歌となりました。このオリジナル舞台は、平和活動として今後も続けていきたいと願っています。

「対馬丸の悲劇」は私達に戦争の凄まじさ、悲しさ、空しさ、愚かさを教えてくれます。8月は敗戦の月、二度と戦争の悲劇を繰り返さないことを誓おうではありませんか。



(魂の舞い)

## 体験 研修

### 「急変時の対応 ～バイスタンダーによる一時救命処置～」

7月9日(木)の定例研修会は2A病棟の土橋師長を講師に「急変時の対応～バイスタンダーによる一時救命処置～」と題し、院内の職員全員に向け、人形を用いた体験研修が行われました。

バイスタンダーとは倒れた人の傍にいる人、市民救助者を意味します。身近に突然の心臓停止が起こった場合、その場に居合わせた人が適切な救命処置を行うことで一命を取り留める一役を担えるよう、胸骨圧迫とAEDの使用方法について学びました。

胸骨圧迫とは、心臓マッサージの正式名です。この胸骨圧迫を深く、早く、絶え間なく行うことで、近年、気道の確保や人工呼吸よりも救命率のアップにつながるとされているそうです。まず胸の真ん中に手の付け根を置き、肘を真っ直ぐに伸ばし上半身の動きで、少なくとも5cm程度沈むように、100回/分の速さで圧迫を30回繰り返します。実際にやってみると、力の加え方や圧迫のタイミング等、なかなか難しいもので、また、この動きを一人で続けていると極度に疲労して圧迫が弱くなって

きます。圧迫の中断を最小化することも重要で、周囲にいる人たちが「代わります」と積極的に声をかけて交代を迅速に行う練習もしました。

AEDは、流れてくる音声ガイドにに従いながら使用していきます。普段AEDを使用する機会など減多にないのでケースの中身や物品の扱い方など初めて見て触れた職員も多かったのではないかと思います。今回の体験研修は、万が一の急変時に臆することなく落ち着いてAEDを扱う心構えを養う最初の入り口となったのではないのでしょうか。

外傷や疾病の急性発作などは突然にやってきます。そのとき傷病者の人生は近くにいる人(バイスタンダー)の適切な対応にかかっているといても過言ではないでしょう。万一そのような場面に遭遇したときに適切な対応ができるよう、日々改善されていく救命方法を継続的に学んでいきたいと思いました。



## 2015 ヘモフィリアサマーキャンプ



7月25日(土)、26日(日)の2日間、第18回福友会主催のサマーキャンプに参加しました。場所は熊本県阿蘇郡の大自然に囲まれた宿泊施設アソシエートで、今回は福岡・大分・熊本・山口各県から会員の皆さん、学生、成人ボランティア、医療スタッフなど総勢112名参加の盛大なキャンプとなりました。

1日目は入村式の後、小学生の患者さんへの自己輸注のレクチャーが行われました。実際にいま自己注射をしている高校生によるデモンストレーションと看護師の見守りのもとで溶解操作や針の扱い方を学び、自己注射に対する動機づけができたことと思います。待ちに待った夕食はレストランバイキングで、食事をしながら患者さんと交流を深める良い機会となりました。その後は屋内で、キャンプファイヤを模したオブジェを囲み、歌やダンス、そして学生ボランティアの巧みな進行によるゲーム大会で、子どもも大人も入り交じり楽しいひと時を過ごしました。

夜の9時半からは座敷に集まり座談会が行われました。大

分記念病院の職員による職業についての紹介があり、患者さんのご家族からは子供の進学、就職についての相談、またそれに対する医療スタッフや他のご家族からの助言で談義は進み、気づいた時には夜の11時半を過ぎ1日目が終了しました。

2日目は早朝から皆でラジオ体操。その後、血友病の患者さんにご家族を取り巻く社会の現状や医療者としての関わり方等について、福岡県立大学看護学部の青野先生に講演して頂きました。10時からは屋外でクイズラリーがありましたが、各チーム優秀な成績を納め、問題を考えた産業医科大学血友病ナースコーディネーターの小野さんを悔しがらせるほどでした。その後は子ども達が楽しみにしていたスイカ割りがあり、割ったスイカを皆で美味しく頂きました。

今回のサマーキャンプを通して、イキイキとした子供たちや愛情あふれるご両親の気持ちに触れることができました。また血友病という病気を患者さん側の目線で考える良い機会となり、とても充実した2日間でした。福友会の皆さん、産業医科大学スタッフやボランティアの皆さん、お世話になりました。有難うございました。



## 新入職員歓迎

## 玉入れ大会



6月13日(土)19時か

ら、毎年恒例の新入職員歓迎会

が南大分体育館で開催されました。今年も例年通り玉入れ大会を行いました。今年の参加者は職員が約220名、職員の子どもさんが約80名と300名近くの参加があり、大変盛り上がりしました。

玉入れは、部署別に6チームにわけ、総当たりで合計15試合行いました。今年で玉入れ大会も5年目となり、各チーム様々な作戦を立て、多いチームでは、1試合に50個近くの玉を網に投げ入れていました。

前半戦と後半戦の間に、会場に来てくれた子ども達を男の子・女の子で紅白に分け、エキシビジョンマッチを行いました。双方、負けまいと必死に玉を網に投げ入れている姿が大変微笑ましく映り、会場を和ませてくれました。



激戦の結果、豊田名誉理事長、佐藤昌彦副院長、佐藤榮一医師率いる「2階A病棟・竹田クリニック・情報システム管理課」の合同チームが見事優勝に輝きました。結果発表の後、25名の新入職員が自己紹介をしました。皆、若々しく元気なアピールで、最後まで楽しむことができました。また、今大会も負傷者もなく無事に会を終えることができました。

参加された職員の皆さん、お疲れ様でした。この会で培ったチームワークで病院を盛り上げていきましょう。



優勝

## 新入職員の紹介

7月に入社した新入職員をご紹介します。  
どうぞよろしく願いたします。



末房 沙友里(医療事務課)  
先輩方の話をよく聞き、少しでも早く業務を覚えられるように頑張りたいと思います。

## 編集後記

6月に毎年恒例の新入職員歓迎会にて玉入れ大会を行いました。普段あまり触れ合うことのない職員とも交流を持つことができ、より結束力を高めることができました。今後も皆で支え合い、時には競い合って進んでいこうと思います。

また、講演では戦時中アメリカの潜水艦から撃沈され、多くの子供が犠牲になった疎開船対馬丸の悲劇について学びました。今年には戦後70年を迎えました。戦争を経験された方が年々少なくなっている中、新たな世代に命の尊さや戦争の愚かさを語り継いで二度と戦争を起こさない世界にしていかなければいけません。

(事務課 矢野)

がん患者さんやそのご家族、介護援助者の方々の交流会です。一般の方もご自由にご参加ください。

リレー・フォー・ライフ  
大分サロンの  
ご案内

毎月第3日曜日 午前10:00~12:00

当院1階多目的ホールで開催しています。

会費は不要です。

主催 リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分



## 医療法人 大分記念病院

## 基本理念

- 1) 私達は病院各部門が一致協力して、患者中心のチーム医療を実践することにより、患者満足度と幸福に貢献します。
- 2) 私達は常に診療レベルと看護ケアの向上を図ると共に地域住民に安全で良質の医療を提供します。
- 3) 私達は地域の医療・福祉機関との緊密な連携を保ちながら地域完結型医療を実践します。

## 基本方針

- 1) 専門的医療レベルと医のアートを兼ね備えた全職員による全人的医療を患者の皆様へ提供します。
- 2) 患者の皆様立場に立って、信頼と安全の確保に全力を尽くします。
- 3) 患者の皆様満足度を高めるべく、心のこもった医療サービスに努めます。

大分記念病院ホームページはこちらから

大分記念病院

検索

